
L I F E ! - 俺たちの日々ー

甦良琉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

L I F E ! - 俺たちの日々ー

【Nコード】

N 0 2 3 2 J

【作者名】

甦良琉

【あらすじ】

中2の春に転校することになった俺、早川真琴。新しい学校でもまあなんとかなるだろうと思いつつ超不安だけどやっぱり何とかなれると思う。真琴とその仲間たちが送るバカっぱいけど結構楽しい学校生活を綴った物語

転校初日

中2の春、俺は転校することになった。理由は親父の転勤、そして今俺は新しい制服を着て新しい学校の新しい教室の廊下に立っている。中ではホームルームでもがやがやした声が聞こえる。ヤバイ、超緊張する、乗りたくないジェットコースターに無理やり座らされた時ぐらい緊張する

「はい静かにー、今日は転校生を紹介するぞー」

「マジでー!？」

「男？女？」

ヤバイヤバイヤバイ！マジでヤバイ！超緊張する、心臓が爆発しそう、どっかーん！って

「ハイ、入っていいぞー」

ガラガラとドアを開けるて教室に入ると騒がしかった教室がシーンと静まり返る、もうヤダこの空気、なんで急に静かになるんだよ、超見られてるし。もうヤダ帰りたい。

「よーしじゃあ今から転校生に自己紹介してもらおうぞー、一回しか言わないから聞き逃さないように」

なんでワンチャンス？と心の中で突っ込みを入れ意を決して一歩前

に出る

「えーと、早川真琴はやかわまことっていいいます。これからよろしくお願いします」

「はい、早川真琴君です。皆仲良くするようにー」

さらっと2回言ったし、名前。別にいいけど、担任に指示され一番後ろの廊下側の席に座る、男子列・女子列となっているので隣は必然的に女子

「よろしくね、早川君」

「え、ああ、よろしく」

隣になった女の子にあいさつされぎこちないあいさつを返す。てゆーかこの子カワイイっ！肩までかかったセミロングのサラサラヘアーに吸い込まれそうなキレイな眼、整った顔立ち。なかなかいいぞ、こんなカワイイ子。

「はい、じゃあホームルームを終わりにするぞー。学級委員号令」

「気をつけー、礼」

「あ、あと早川は教科書渡すからあとで職員室来い」

「はい」

しまった、肝心の職員室の場所がわからない。仕方ないのでさっきの女の子に聞く

「職員室なら2階の北校舎だよ。教科書、多いと思うから誰かについていってもらったら？」

ついてきてもらうといっても転校したてで友達もいない、仕方ない1人で行くか

「俺がついてってやるよ、優しいから」

「マジ？サンキュー」

ひとつ余計な語が入った気がしたがありがたいことには変わらない。

「俺、たかとつこうへい高藤浩平よろしくな」

「よろしく」

浩平に半分教科書を持ってもらい教室戻る。なるほどたしかに多い、1人じゃあつらかったなと思うと浩平がついてきてくれて助かった

「なあところであ」

「ん？何？」

「お前、桜木にちょっと見とれてたべ」

「桜木？」

「お前の隣のヤツだよ、桜木春^{はる}。あいつカワイイもんなー」

そつかあの子桜木春っていうのか

「うん、それは思った」

「あいつすげーモテるしな、噂じゃファンクラブ作ってる連中もいるって言うし」

「ファンクラブ！？中学生だろ？ほんとかよ」

「ああ、前に一度桜木にコクろうつとしたヤツが謎の集団にボコボコにされたらしい」

スゴイ・・・幾ら一学年6クラスのマンモス校だとしてもそんな連中までいるなんて

「はあー、すげーな」

「リアクション薄くない？」

「そう？でもまあ、飛んでもねーのには慣れてるっちゃ慣れてるから」

「？」

「ま、気にすんな」

キンコーンカーンコーン

休み時間の終わりを告げるチャイムが鳴り俺と浩平は少し急いだが間に合わなかった。転校初日から授業に遅れるとは、言い訳に教科書取りに言ってたと言えはいいのに浩平は

「いや、ちょっとショッカー軍団と戦ってました」

といったため笑われながら怒られた・・・どんな状況？

転校初日（後書き）

どもーそらるです。真琴たちの学園生活楽しんで読んでいただけたら嬉しいッス。でわでわ

班決め

時は流れてもう5時間目。今日の学活では何やら遠足的なものに行くというのでそのことについて話らしい

「じゃあ来週の遠足についてだが、行き先は鎌倉に決まった」

「いえーい」

皆それなりの反応、まあ中2にもなって遠足というのもどうかと思うが

「はいーいじゃあ今から班決めるから、自由に動いていいぞー」

まずい、今日はまだまともに話したの浩平くらいしかない。ちょっとはその辺考えろよ担任。

「なあ、真琴一緒に班組まねえ？」

「え？ああ、いいよ」

「じゃああと一人呼んでくるわ」

助かった、まあこれで何とかなるだろ

「連れてきたぜー」

「よう、よろしくな俺、たちはなそつすけ橘総助」

「よろしく」

「あとは、女子か・・・」

班の構成はどういう訳か男女で6人か5人らしい。小学校か？

「ねえねえ、高藤くん達あいてたら一緒に班組まない？」

声をかけて来たのは桜木と・・・誰だ？もう一人、転校して来たばっかだから名前がわからん

「も、もちろん！」

「ありがとう」

「あれ？転校生じゃん。名前は・・・」

「真琴、早川真琴」

「ああそつだ！早川だ、早川。あたしは遠山華南^{とおやまかなん}、よろしく！」

転校初日でいきなり名前を忘れられるとは思わなかった、別いいけど

「そつだ、あたしも自己紹介してなかったね。桜木春っていうんだ、よろしくね」

「ああ、よろしく」

知ってましたけどね。うーんそれにしてもカワイイ、ファンクラブがいるっていうのもなんか納得できる様な気がする。浩平なんかちよつと浮かれてるし。心なしかやや殺気の混じった視線を感じる気がする、気のせいだ、気のせい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0232j/>

L I F E ! - 俺たちの日々

2010年10月28日07時34分発行